

議事録

【件 名】 第1回 府中町特別職等報酬等審議会

【日 時】 令和8年8月18日（火）10：00～11：45

【場 所】 府中町役場 5階 第1委員会室

【出席者】（委員） 小濱委員（会長）、上原委員、木村委員、穴戸委員、
篠永委員、竹中委員、竹原委員、花田委員、門前委員
（府中町）寺尾町長
（事務局）谷口総務企画部長、岩崎次長兼職員課長、清原課長補佐

【欠席者】（委員） 上田委員

1 開会

2 町長あいさつ

3 出席者の紹介

4 会長の互選、職務代理者の指名

互選により小濱委員を選任

職務代理者は、会長の指名により門前委員を選任

5 諮問書の交付

6 資料説明・意見交換等

資料により事務局から説明

（〇〇委員）

議員報酬の性格については、「生活給的な要素を考慮せず、その職務の特殊性に応じ、当該職務に対する一切の給付を含めた対価として支給されるもの」と書いているので、労働の対価や賃金ではないということだと思う。

今回、物価上昇とそれに伴う手不足、全国的に市議会より低いこと、県からの権限委譲により役割、責任が重くなったこと、の三つの背景がある。

2番、3番はわかるが、1番に関しては、議員の活動にあたって物価高騰によりこれまで以上に費用がかかっているという理屈でよいのか。

議員報酬の性格的なところの説明をお願いしたい。

（事務局）

議員報酬の性格は、賃金的なものではなく、職務に応じた給付の支払いという性格を持って

いるというのが原則である。

一方、議員も一人一人それを給料として、生計を立てているという実態はあり、昨今の物価上昇も検討材料の一つに入っている。

(〇〇委員)

資料では、生活給的な意味合いはないと言っているが、先ほどの説明では生活給的な意味合いがあるとおっしゃられている。

齟齬があるので、どう解釈していいのかがわからない。

町としては生活給的な要素も含めて、議員報酬を決めていきたいという考え方でよいか。

(事務局)

昨今の賃金上昇や物価上昇といった社会経済情勢を踏まえて、今の議員報酬額が適切かどうかを検討いただきたい。

(〇〇委員)

生活給という考え方はある。

議員報酬だけで生活している議員も半分ぐらいいるのでは。

そういう人にとってやはり生活費の上昇というのは多少関係があるのではないか。

議員報酬以外に、政務調査費というのがある。

これは、他の市町村に視察に行くとか、そういう費用が上昇しているのは事実である。

政務調査費については、別のところで議論するのだと思うが、運賃も宿泊費も上がっており、あれから20年ぐらい（政務調査費も）変わってないから、10万円では少ないのではないか。

議員生活する上で、勉強の面で必要だと思う。

(〇〇委員)

自身が選択されて議員になられたのだと思うので、議員個別のバックグラウンドの話は関係ない考える。

それに対して生活給だと言われると、外への説明がしにくいので、それは表に出さないほうがいいと思う。

物価上昇に関して言えば、調査費が上がるのであればそこを上昇させるべきではないか。

純粹に、役割、責任の重さが変わってきたことに対して報酬を上げるか上げないかが、正当な議論、支払いの根拠になるのではないか。

(〇〇委員)

ここで議論することではないので、政務調査費については置いておきたい。

議員報酬は、原則、生活給的な要素は考慮しないとなっているので、私もそこを前面に出すのはどうかと思う。

(〇〇委員)

生活給的な要素を考慮せず、その職務の特殊性に応じて、ここまでは理解できる。

それならば、議員報酬を皆さん全員10%程度上げるとかではなく、議員というのは、その活動、調査の仕方も皆さん違うと思うので、町民が理解してあの人はよくやっている、見える範囲でその対価である政務調査費を上げたら、皆が納得できるのではないか。

報酬額より、議員の居住地の偏りや女性議員の少なさのほうの問題とを感じる。

(〇〇委員)

実際に議員になってみると、現在の議員報酬では苦しいと感じる。

一方、議員は兼職ができ、それを奨励しているのではないかと考えられる。

給料は少ないが、副業を持ってやるべきというような風潮が20数年あった。

だが、多分近隣の市町村の報酬額の引上げが今回の一番の契機になっており、近隣とあまり

差があっては良くないと思う。

(〇〇委員)

何のために報酬を払っているのかという考え方のところを皆さんで共有するため、基準を作っておいた方がよい。

生活給的な要素を入れてもいいが、その根拠をクリアにしておきたい。

なり手不足に関しては、多様な人材が議員になって、行政の活性化に向けていろんな議論ができるようにしたいという思いや、若い世代がこの報酬では議員になどなれない、というような状況がもしあるのであれば、将来を考えると上げたらいいと思う。

生活給的な要素を入れないでくださいということではないが、将来的なところもあるので、基準はぶれないようにしていただきたい。

事務局として、報酬額を決定する要件として何か参考になるものはあるか。

生活給的な要素を入れていただいても全く問題ない。

(事務局)

議員報酬の性格は、生活給的な要素を考慮しない、あくまでも職務に対する対価であるというところが原則ではある。

ただ、他の自治体の報酬審議会の議事録などを見ると、生活給ではないとはいえ、そういった議員報酬をもって生活されている議員は実際におられ、なり手不足といった問題なども含め、社会経済情勢に対応した議員報酬のあり方を検討されている事例が見受けられるので、そこも考慮しつつ、検討いただきたい。

(〇〇委員)

もう少し具体的な要素があれば、イメージがしやすい。

社会経済状況とは何なのか、となるので。

背景理由の、権限委譲で役割、責任が重たくなったなどの状況がわかるものがあればお示しいただければ助かるのだが。

(事務局)

大きな内容としては、平成26年4月から福祉事務所が府中町に設置され、これまで県で行っていた業務が、町におりてきているというようなことがあるが、そのことによって、議員の会議や活動が増えたかといった資料については、次回までにお示ししたい。

(〇〇委員)

議案ごとにその重さというのは変わってくるから、それによって給料が左右されるというのはおかしい、現実には合っていないような気がする。

基準を決めるというのは本当に難しいと思う。

近隣の市町村を参考にせざるをえないと思う。

海田町も、坂町も、熊野町も近隣で繋がっていて、人間だって入り乱れているわけだから。

その中で府中町だけは少ないというのは、府中町の議員としてプライドが持てない。

普通の生活ができるぐらいのレベルは、近隣を参考にしながら決めていくべきじゃないかと思う。

(〇〇委員)

その話をすると、すでに府中町が三町の中で一番高いので、上げる必要はない、逆に下げたらどうですか、という議論、結論になってしまう。

(事務局)

報酬月額で見た場合には、広島県の町の中で府中町は海田、坂よりも低いですが、期末手当を含めた報酬年額については、坂や海田よりも上位であるのが現状である。

(〇〇委員)

近隣市町は、最近どこも上げていて、月額では海田より低くなった。
世の中は変わっていくわけだから、ある程度、プライドが持てるような給料が必要ではないか。

(〇〇委員)

議員報酬には生活給的な要素を考慮しない、これは法律的に明記されているのか。

(事務局)

地方自治法という法律の中では資料にあるように明記されていないが、法の解釈として生活給は考慮しないものとされている。

(〇〇委員)

解釈で、生活給的な要素は一切考慮しないというが、議員は生活給として、それで動けているのが実際なわけで、この解釈は考慮しないとしてはどうか。

(事務局)

この解釈については、自治体ごとに決められるものではなくて、全国、統一した見解であり、まったく考慮しなくていいと言い切ることはできない。

ただ、そういった要素も加味しながら、報酬額を決めていくという実態はある。

(事務局)

原則的な考えは変わらずとも、解釈の中で多少緩やかに理解をしてもいいのでは。

(〇〇委員)

期末手当を入れて500万円を超える額について、30年間上げた方がいいんじゃないかという会議の場がなかったにしろ、見直しされなかった経緯と、この500万に対して報酬は妥当か、事務局の見解をお示しいただきたい。

議員にも、本当に頑張ってる人、そうでない人というのも見えたり、500万円出すのは惜しいと、そういうところもあるのですね。

税金を使ってよりよい府中町の発展のために頑張っておられる議員、そういう議員を選ぶのが町民の責任だと思うが、この500万円でがんばってもらえるような報酬かどうか、その妥当性を示してほしいと思う。

(事務局)

今回の報酬審が約30年ぶりだが、この間臨時的な給料額の減額はあったが、報酬そのものまで見直そうという議論には至らなかった。

その正確な理由は把握していないが、消費者物価指数であったり、職員の給与改定だったり、近年大幅な上昇傾向が見られているというところで、それまではほぼ横ばいか緩やかな変動であったといったところも一つの要因ではないかと推察する。

(〇〇委員)

今まで出された意見をまとめると、議員報酬とは職務の対価ということは基本でいいと思う。

この役割が非常に拡大してきたとか、職務が大変になったということの、例えば対価だとすると上げましようとなる、これが基本だと思う。

それ以外の意見としては、実態として、それだけで生活されている方もいらっしゃるって、そういう方がこの報酬では議員にはなれないってというような実態が出てくるとすれば、生活給付的な側面も考慮せざるをえないのでは、という意見もあった。

それと、近隣の市町と並ぶってということも考える必要があるのでは、という意見もあった。
この3点が出されたと思うが。

(〇〇委員)

近隣の「動向」を考慮したらどうかと考える。
今の状況というのは常に変わっているから。
全国的にそういう動向にあるということも考慮の一つになるのではないかな。

(〇〇委員)

議員さんは目的を持って議員になったと思う。
今の議員は報酬以外に年金とか自営業の人とか、所得、収入があるはず。
だから500万円もらえば十分だと思う。
200万年金というから、合計700万ぐらいある。
今年金をもらっている人が約4分の1ぐらい府中町におられることを思ったら、確かに今の議員報酬は十分なのではないかと思う。
他町と比べてみても、劣ってはいない。
ただ、人口からしたら少ないかもしれないとの考え方もある。
議員を減らしてそのまま上げるという手もある。
18人を15人にするとか、いろいろな考え方があると思う。

(〇〇委員)

昔のことを思い出してみると、その時は、議員になろうとした若者が、その時の報酬で生活ができない、そういう考え方だった。
年間稼働日を決め、その中で、議員として休まなければならない。
さらに議員活動を行うために自分で休んで資料を集めて、ということを考えると生活給的な考え方が必要だったのではないかと思う。
議員は、確かに高齢化している。
昔のことで定かではないが、前は、議員になりたいという若者がおらず、そういう時代があって、今の金額を決めたと思う。
議員報酬は上げて良いのではないかと私は思っている。

(〇〇委員)

議員の期末手当の性格がよくわからないが、社会経済動向が良くなればボーナスは上がるし、悪くなればボーナスが下がるので、ここで、ある一定程度担保できているように思う。
だからベースの報酬だけ、例えば500万円ぐらいが妥当とするなら、それを月額で割り振って期末手当を払わないというやり方もあると思う。
期末手当が坂町、海田町は低いので、府中町が年収で上回っているが、期末手当を同じにすると坂町、海田町の方が上に行く。
期末手当は変動要素があるので、これで勝負しようとするとかわりにくいけど、一般感情からすると、年額での比較が見たいと思う。
職務の重さで評価すべきだと思うので、どこかでやっているようだが、例えば、役場の課長級クラスの役割責任だと定義をして、その程度支払うというやり方もあると思う。
定義してしまえば、町の課長級の給料が上がれば、自動的に上がるということ。
個人的には、若い人たちにどんどん来て議員になってもらいたいので、生活を保障するだけの、それに見合う分は払っていくという考え方はあるとは思いますが、それを言い出すと、議論が着地しないような気がする。

(〇〇委員)

それを決めるのはなかなか難しい。
期末手当はここで決められるものか？
ここで決められるのは月額だけか？

(〇〇委員)

期末手当を支払う根拠は条例なのか？

(事務局)

そのとおり。

(〇〇委員)

背景理由のところで市議会より低いという議論が出ているというところは、懸念がある。そこと比較するのかと。

例えば三次市とか大竹市とか、府中町より人口の少ないところで、財政的にも我々の方がいいし、なぜここより低いのか、というような話になるのは嫌だなと思う。

(〇〇委員)

7月15日の中国新聞に、この一覧表と同じようなデータが出ており、月額報酬だけを比較されているが、最終的には年額が幾らかという問題になると思う。

実はふたを開けてみると、年額の総額というのは府中町が一番大きいということで、月額報酬だけを議論するのはちょっと違うのではないかと、近隣の市町村と比較する場合、総額で議論しなければならないのではないかなと思う。

(〇〇委員)

365日のうち、議会、委員会とかも含めて100日ぐらい実働、どこかの資料で見たような気がするが、それも考慮に入れて考えたいと思う。

私も、年額で考えるべきだと思う。

月額はありません。

(〇〇委員)

行政の課長に合わせて決めるのは難しいと思うので置いておきたいと思う。

今後、論点を議論するにあたって、事務局に用意して欲しい資料はないか。

(〇〇委員)

我々がいちばん目にする議会だよりの活動報告や議会や委員会の日数だけでは計れない部分もあると思う。

意見集約のために、自分の時間や自費でいろんな活動をされている方もおられるので、年間でどれぐらいの活動をされているのかが見える資料があれば、ありがたい。

(〇〇委員)

個人差が大きいから難しいだろう。

例えば、個人的に行った先で相談を受けたら、議員は対応するが、それが仕事なのか、プライベートなのか基準はないから、まともな報告も出さない。

どこからどこまで仕事で、どこからどこまでプライベートか、判別は難しい。

(〇〇委員)

企業がされているような実績評価、どういうパフォーマンスを出したのかによって、換算していくやり方が本来あるべきだと思う。

任期の4年間、何もなくても議会に出席しなくてもこれだけもらえている。

本当は議員間で、序列があってもいいと思う。

むちゃくちゃな例え話だが、住民から20%支持をもらった人は、議員報酬の総額から20%分もらう、5%しか投票率がなかったら、5%しかもらえないとか。

投票だけでは、本来の活動のパフォーマンスは含まれないが、なかなか難しいのはわかる。

個人的には落としどころとしては、役場職員の方の役割責任に応じて議員をどの程度の位置に置くのがいいのかみたいな議論はできなくはないような気がする。

それで水準をある程度決めてしまう方法はあると思う。

年間365日、一般企業であれば220日から240日ぐらいの稼働があると思うが、頑張ったとして120日、年間3分の1ぐらい稼働してというところで500万だったらどうなのかというような議論はできるような気がする。

(〇〇委員)

何か資料は出せそうか？

議員さんが具体的に、どのように動いてるかというのは。

(〇〇委員)

そのような資料は難しいと思う

自己申告だから何とでもできる。

(〇〇委員)

議員報酬のあり方を議員が、昨年度議会の委員会等で議論されていたということで、審議の内容や議論の概要を、次回、説明していただけたらどうかと思うが、いかがか。

(〇〇委員)

開示はいただきたいが、秘密書類、外に出すような資料ではないと思うので、紙でいただいて、会議中に読ませていただいて、後で回収してもらうのはどうか。

説明、言葉だけだと過不足が出るような気がするので、もし資料、議事録など見せていただけるのであれば、開示いただきたい。

(事務局)

議会事務局の職員を招聘し、議会でどういったことが議論になったのかというところをお願いしたいということは事前に相談しているので、資料についても調整をしてみたいと思う。

(〇〇委員)

資料は、箇条書きで端的にこういう意見があった、くらいがわかりやすいと思う。

(〇〇委員)

では、次回は議会事務局の方に来ていただいて、説明していただく。

月額を上げるかどうかの審議は、期末手当も含めた年収の額で判断する。

今回は以上の方でよいか。

では、1回目はこれで議論を終わりたい。

(事務局)

2回目の追加資料として、権限移譲を含めた議員の活動の変化がわかる資料を用意させてもらいたい。

7 事務連絡

8 閉会